

特定テーマ①

基本計画（水源地域振興拠点施設整備基本計画）に示した基本方針に則して、コア施設（温泉施設、農村レストラン等）を整備する際の方向性（コンセプト）や重視するポイントについて提案してください。なお、民間事業者による運営を想定し、設計の際にどのように意見を反映させる考えがあるか、記載してください。

【コア施設コンセプト】：

- 「DAILY PICNIC」ピクニックに出かけた人たちが、集まりたくなる交流したくなるコア施設
- 鹿沼市西北部地域にピクニックに来た人たちが、集まりたくなる交流したくなる温浴施設や農村レストランを目指します。
- 屋内（コア施設）と屋外（フレキシブルな施設）の連続性。屋内活動を連続的に屋外へ展開する。
いつも気持ちはちょっとずつピクニックに向かっていく。そういう建築とランドスケープの関係性をイメージ。



イメージ写真：鹿沼市の木材を活用した自然と調和した施設

温浴機能 | 景色が見える内湯/開放的な露天風呂/サウナ 等

- ・地域の人やピクニックで訪れた人たちが楽しめる温浴施設
- ・日常生活の活力が生み出せる温浴施設、ピクニックの思い出がさらに楽しみに変わるそんな温浴施設を目指す。

飲食機能 | 農村レストラン/カフェ（軽食）/眺望のよいテラス

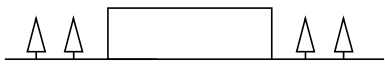
- ・地域の食を活かした、アウトドアスタイルのカフェレストラン
- ・展望エリアを活かした自然景観を臨む空間
- ・広く屋外テラス席を設けて客席拡張
- ・体験サービスと組み合わせて、店外に持ち出すテイクアウト商品にも力を入れ売上を作る

物販機能（物販直売所）/加工機能（食品加工所）/体験機能（調理室・学習室）ほか

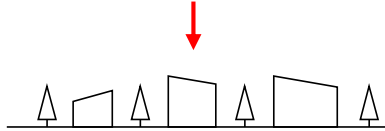
- ・鹿沼木材や野菜など地域独自のものやピクニックで利用できる商品の販売
- ・店舗での購入品、加工商品、体験したものを店舗で受け取り、店外に持ち出すサービスも実施。
- ・鹿沼市の魅力をを活かした複合体験施設を整備する。

【ランドスケープと一体となった建築の提案】

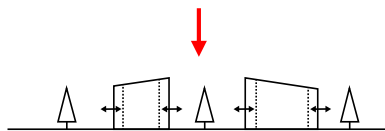
内から外へ。連続的につながる空間。いつも気持ちはちょっとずつピクニックに向かっていく。



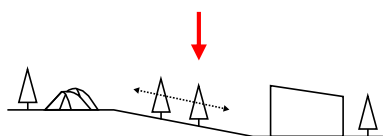
地域や周囲の自然と呼应する建築づくり、敷地自体のポテンシャルを最大限に引き出す。



パブリックな場で多様な過ごし方ができるところをつくり、建物の内と外で一体となるような距離感を持ちながら展開していくように設計。



中間領域の操作で内と外の魅力的な境界を演出し、屋内活動を連続的に展開。



今ある地形を生かしながら、緩やかに視線を遮り、一体感のある全体計画。



「育てる・学ぶ」
ストーリーが見えるランドスケープ」
庭のようにあつらえられた畑をつくり、コンパニオンプランツなどの安心安全の工夫を学べる。



「連続性の大切さ」
その場で育てたものをその場で食す。ストーリーがみえるだけで感動は高まり、生産地としての本気や消費者にとっての臨場感が味わえる。



「緑の駐車場」
緑に包まれ、季節を写す駐車場。緑の存在が豊かな空間をつくるだけでなく、運転者に注意を促しスピードダウン、安全配慮にも効果がある。

*用紙はA3判とし、横使いで記載すること

*提出者（協力事務所等を含む）を特定することができる内容（具体的な社名等）は記載しないこと。社名等が特定できないものであれば、写真等の掲載も可とする。

【フレキシブルな施設】：「DAILY PICNIC」ピクニックに出かけた人たちが、手軽に楽しめるアウトドア体験施設

宿泊機能 | グランピングやキャンプスペース

- ・ピクニックでの来場者やビギナー向けの手ぶら利用を充実させる。
 - ・トレーラーハウス等も整備し、アウトドアのライトユーザーも狙う。
 - ・食材はコア施設の農村レストランや加工所からも取り寄せを可能にすることで、各施設の連携を図る。
- （整備予定 | サニタリー棟（炊事場・トイレ）、トレーラーハウスほか）



アクティビティ機能 |

- ・地域の人たちや来訪者が自然の中で様々な体験をできる場とする。
 - ・南摩ダム湖周辺や園内ののアクティビティと連携したプログラムを展開する。
 - ・南摩ダムと当該施設の広域を周遊する体験サービスとして、電動サイクルとアウトドア体験を組み合わせた新サービスの提供。（食材とアウトドアギアのセットレンタルなど）
- （整備予定 | SUPやカヌーなどの艇庫、貯水池（釣り）、サイクリング用道路 ほか）



【民間事業者による運営を想定し、設計の際に反映させるポイント】※過去事例紹介

- ・S社のグループ会社が実際に、運営することを想定したうえで設計を行うが、民間事業の場合、設計そのものの重要性もさることながら、施工後の収支・誘客についても検討。
- ・これまでの実績でも、設計の際には、建築士などの専門家だけでなく、顧客を巻き込んだ取り組みを行っている。
- ・顧客の意見を反映させ設計に活かすほか、改修や整備前にそのアウトドアフィールドに係った顧客は、OPEN後も熱烈なファンとなってくれることが多い。
- ・S社は全国に40万人を超える熱烈なファン基盤を有するため、OPEN前から鹿沼市のファンを作り上げていく

整備前



ファンを巻き込んだヒアリング・イベント開催



OPEN後 | 年間来場者数が想定の2倍となった。



ヒアリング・イベントを行って、顧客、地域の人と共に魅力的な施設の提案を行います。

<美しい四季を感じられるランドスケープ>



四季折々の変化をつくる植栽計画を行い、他ではできない体験を提供。違う季節にまた来たいというようなフィールドを創出。

<土地の自然環境に最も適したフィールド>



現地の地形、植生、排水状況などを読み取り、この土地に一番馴染む配置計画を行い、管理効率だけではなく環境を基盤にしたフィールドを設計。

<屋外の多様な活動を想定した設計>



キャンプだけでなく、各種イベントの会場としても活用できる空間設計を行う。日常的にも使えて、特別なイベントの際には舞台のように使える空間構成を工夫。

<サニタリー・効率的なインフラ配置>



サニタリーの快適性を向上させ、清潔性を好む女性、寒い季節にも配慮する。ソーラー照明やアウトドア製品の活用も検討し、コスト面で負担を比較検討した上で最適案を決定。